

海江田信義

かたむね

舊薩摩藩士。

天保二年二月十一日薩摩國生れ、明

治二十九年十月二十七日歿（八三—一九六）。舊姓有村、幼名太郎熊。

舊稱有村俊齋、海江田武次。號孤松、靜山、賦齋。幕末西郷隆盛、僧

月照等と交はり、寺田屋事件、生麥事件に關はる。戊辰役では東海道

先鋒總督參謀として江戸城受取りに貢獻、城管理の責任者となる。維

新後奈良縣知事、元老院議員、樞密顧問官等歴任、子爵。この間明治

二十年歐米に出張、ウイーンでスタインの憲法講義を聴いた。長女鐵

子は東郷平八郎に、二女香子は東郷吉太郎に嫁す。

著書に、『維新前編 新實歴史傳』全十冊（西河稱鑑、一一二・明治二十四年九

月十四日、中編四一七・二十五年二月九日、後編八一十・十月十日歿

野善丘齋刊）、と案『日本成綱論』（西河稱鑑筆、明治二十六年二月

十二日哲學書院）等。東郷尚武著『海江田信義の幕末維新』（平成十

一年十一月）、二十日文藝春秋「文藝新書」（）がある。

